



2023
健康経営優良法人

Health and productivity

認定証

(中小規模法人部門)

法人名

中京陸運株式会社

貴法人は、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する「健康経営」の取組が優良であると認められました
よって、ここに「健康経営優良法人2023(中小規模法人部門)」として認定します
経済産業省及び厚生労働省と共に、今後一層取組を推進されることを期待いたします

2023年3月8日

日本健康会議



健康宣言実施結果報告書

事業所名

中京陸運株式会社

健康づくり
担当者名

鷲見 正憲

項目		実施項目 にチェック	取組内容・実施結果(数値報告)
必須項目	1	健康宣言の社内外への発信・経営者自身の健診受診	✓ 社長自ら健康宣言を実施し、社内外への発信(HP等)も実施
	2	健康づくり担当者の設置	✓ 社長が総務課長を総推進担当者に、各事業場の長を推進担当者に指名
	3	(求めに応じて) 40才以上の従業員の健診データの提供	✓ 提供済
	4	健康経営の具体的な推進計画	✓ 全年齢対象のメタボの社内割合を4年間分析、検証と対処
	5	受動喫煙対策に関する取り組み	✓ 敷地内・室内全面禁煙
	6	健康経営の取り組みに関する評価・改善	✓
	7	法令を遵守している	✓
	①	社員が元気で働くためには、家族の健康が不可欠です	✓ 扶養家族の定期健診の受診勧奨、費用の一部のみ本人負担に限定
	②	定期健康診断の受診	✓ 業務都合での未受診管理を徹底し、別日受診で受診率を実質100%に
	③	受診勧奨の取り組み	✓ 要再検査/要治療となった者には、所定の用紙で医師の所見を提出してもらう
	④	ストレスチェックの実施	✓ 受検率約72%へ遞減、高ストレス者は約10~14%で、集団分析過去7年実施
	⑤	管理職または一般社員に対する教育機会の設定	✓ 管理職が研修を受け、全管理職にメール配信・周知し、業務に活用
	⑥	適切な働き方の実現	✓ GW、夏季、年末年始の長期連休を取ることを推奨
	⑦	コミュニケーションの促進	
	⑧	病気治療と仕事の両立	✓ 相談窓口の設置と面接(本人・上司・総務部)の実施
	⑨	保健指導の実施	✓ 特定保健指導の実施(定期健康診断の直後)
	⑩	食生活の改善	
	⑪	運動機会の促進	✓ 朝礼等で体操の実施を勧めている
	⑫	女性の健康保持・増進	✓ 妊娠中の従業員に対する業務上の配慮(就業規則)の従業員への周知
	⑬	長時間労働者への対応	✓ 産業医面談を80時間/月超の人は誘導、100時間/月以上の人は義務
	⑭	メンタルヘルス不調者への対応	✓ 相談窓口の設置と従業員への周知、面接指導体制の整備
	⑮	社員の感染症予防	✓ 全事業所に、自動体温計、加湿器、アルコール消毒液を設置
	⑯	喫煙率低下に向けた取り組み	✓ 敷地内・室内全面禁煙による喫煙機会を減らし、禁煙ムードを高める

取り組み内容「PRシート」

事業所名

中京陸運株式会社

貴社の重点実施項目の中から「アピールしたい取組」があれば、

下記の欄にご記入ください。写真・イラスト等を載せていただいても結構です！

選択項目番号

④ストレスチェックの実施

●現状・目標

50人以上と50人未満の事業所と別け隔てなく、全社としてストレスチェックの実施をして、当社の各部署・全社の傾向と全国平均と比較して、改善すべきものへ取り組み、職場環境の改善(働きやすい職場にする)を目標

●実施内容

- ①、2月末現在の常時使用する労働者に『受検のお願い』と『ストレスチェック用紙』を配布
- ②、回収後未開封状態で産業医経由委託業者にてデータ整理分析
- ③、結果を各労働者には封印した状態で渡し、会社には全体分析図のみ報告
- ④、結果が高ストレスの場合に、総務部実務担当者経由産業医との面談
- ⑤、業務上必要な事項・措置のみ担当者へ報告

●結果

健康リスク(全国平均100)として、全社では、115→119→121→114とやや改善、ストレスの高い部署が改善傾向
年齢別では、40・50代がともに120と、若年層(20代103、30代95)に比べて高い
高ストレス者は、全社で9→13→13→11%でやや改善、産業医面談は前年の1名のみ

●今後の施策

受検率約85→78→75→72%と逡減傾向(毎年同じ問題で飽きられている?)
産業医面談は前年の1名のみも踏まえ
労働者が会社に気兼ねなく受検・面談できる環境を作るための問題点の調査と、
路店長に現状のさらなる理解を求め、改善方を模索する

選択項目番号

⑨保健指導の実施

(特定保健指導として実施)

●現状

定期健診の受診直後に、特定保健指導を初回面談として約20分実施し、その後、対象者」が希望する「電話」又は「メール」で栄養管理士とやり取りを実施し、対象者にあった生活改善の方法をアドバイス等してもらっている。

●問題点・改善

途中で連絡の途絶える人には、保健師より当社の担当者にその旨連絡あり、当社の担当者から本人に連絡し、保健師と連絡が繋がるようにフォロー。

●結果

その結果、特定保健指導は、途中で服薬開始・退職した人を除けば、100%完了となります。(特定保健指導は服薬中の人は対象外)

●傾向・現実

特定保健指導で、数値が改善する人は稀で、地道な努力が必要です。

●認識

本人が、特定保健指導から本格的に病院等で治療開始になるきっかけをもたらすのも特定保健指導の目指すものの一つではないでしょうか？

必須4 具体的な推進計画

(補完的な施策)

●現状

さらに、特定保健指導とは別に、報告書の必須項目の4で述べている全年齢を対象にするメタボ(メタボリックシンドローム)の割合を算出。(過去4年間のデータを蓄積し分析。現状、改善傾向に至っていない)

●目標

滝に例えて、メタボの恐ろしさと回復可能状態を視覚に訴え、対象者に過去のデータを提示して、次回の定期健診までに変化を訴えている。